

校長先生の初恋物語

第26話 アマーラ救出作戦

ちん君はお寺の子。お寺の本堂で、小さな鐘を「ちん」と鳴らしているからちん君です。ちん君は、人を絶対にさべつしません。

学校が終わり、ちん君のお寺に行きました。ちん君は本堂で、うつぶせのまま宿題をしていました。

「とっくん、どうしたの。めずらしいね。何かぼくに用事なの？」アマーラさんを助けてあげたいと話しました。ちん君は、「とっくん、いい人だねえ。」と言うと、「ぼくぼくぼくぼく。」ともくぎょをたたき、最後は「ちん。」と、かねを鳴らしました。そのかねは、すばらしいアイデアを思いついた時の合図です。ちん君は目を輝かせて言いました。

「秘密組織(ひみつそしき)をつくろう。」ちん君の言っている意味がよく分かりません。

「秘密組織って何なの？」その後、ちん君の作戦を聞いているうちに、ちん君の考えたことはすばらしと思いました。作戦は全部で4つ。そのすべてが本当に実現できたら、アマーラさんへのいじめはなくなるかもしれません。

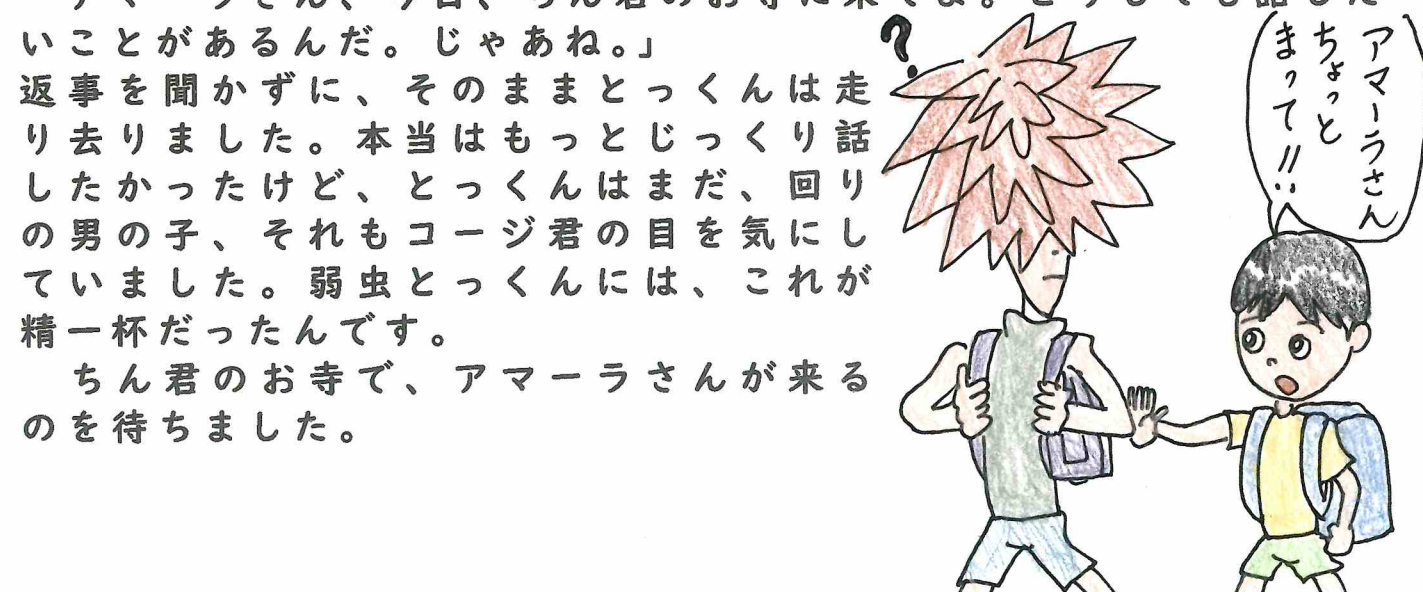
学校帰り、アマーラさんに思い切って声をかけました。

「アマーラさん、今日、ちん君のお寺に来てよ。どうしても話したいことがあるんだ。じゃあね。」

返事を聞かずに、そのままとっくんは走り去りました。本当はもっとじっくり話したかったけど、とっくんはまだ、回りの男の子、それもコージ君の目を気にしていました。弱虫とっくんには、これが精一杯だったんです。

ちん君のお寺で、アマーラさんが来るのを待ちました。

秘密組織!
秘密組織?



「そう簡単に、来てもらえないかもしれないね。」でも、アマーラさんは、ちゃんと来てくれました。アマーラさんは、お寺の本堂に入ると、急にしゃべり出しました。「ひんやりして、気持ちいいんだね。」アマーラさんのとてもきれいな声を初めて聞きました。

ちん君が、秘密組織をつくる話をしました。アマーラさんは最初、何もはんのうがなかったけど、ちん君の話が作戦4まで来たときには、泣いていました。ちん君ととっくんは、「悲しませるような作戦なのかなあ。」と不安になりましたが、そうではなく、アマーラさんはうれしくて泣いていました。

アマーラさんは、話をしてくれました。転校してくる前の学校でつらいおもいをしたこと。マンモス小学校に来たけど、不安でいっぱいだったこと。昔から動物が好きで、犬、猫、うさぎを飼っていたこと。新しく来た家は動物禁止のアパートで、だからガブをかわいかっていること。動物の気持ちが分かること。いろんな話をしてくれました。ぜんぜん変な子ではありません。

「秘密組織の名前を決めようよ。」ちん君が言うと、アマーラさんは、「わたしに決めさせて。ミッタがいいな。」ミッタというのは、アマーラさんが前の学校でいやなことがあった時、ノートのかたすみにいつもかいていた、自作のキャラクターなんだそうです。ミッタを描いていると、つらい気持ちを忘れることができたんだそうです。

「いいね。ミッタにしよう。3人だけの秘密組織、ミッタ。」

ちん君も、とっくんも大賛成しました。

こうして、秘密組織ミッタが誕生しました。ミッタ誕生の瞬間、ついにアマーラさんは、とっくんに素顔を見せてくれました。その素顔に、とっくんは、おどろいてしまいました。そして、とっくんは、アマーラさんに、恋をしてしまいました。その素顔とは。

次回予告 アマーラさんの素顔

